

【テーマ】 カラフルなアートの世界

【対象】 中学生

【所要時間】 20分

【紹介する本】

	書名	著者名	出版社	出版年
1	ラスコーの洞窟	エミリー・アーノルド・マッカリー／絵と文 青山南／訳	小峰書店	2014
2	ベラスケスの十字の謎	エリアセル・カンシーノ／作 宇野 和美／訳	徳間書店	2006
3	カラフルな闇	まはら 三桃／著	講談社	2006
4	岡本太郎	筑摩書房編集部／著	筑摩書房	2014
5	すごいぞ！ニッポン美術	結城 昌子／文	西村書店	2017

【シナリオ】

●導入

皆さんは美術館に行ったことがありますか？たくさんの画家が描いた絵や彫刻が展示してありますね。いつの時代も、人々は絵を描いたり何かを作ったりして、自分の思いを表現してきました。今回は、アートに関する本を紹介します。

1 『ラスコーの洞窟』

今から17,000年前の旧石器時代に描かれた絵が、フランスのラスコーという洞窟の中に残っています。

p.12を見せて

第2次世界大戦中のある日、4人の少年は、貴族が黄金を隠したという言い伝えのある洞窟を見つけ、探検していました。湿った粘土の細い道を進んでいくと、

p.16・17を見せて

奥の壁に牛やトナカイなどの巨大な動物の絵が描かれているのを発見しました。

p.26を見せて

これは、発見した後で、先生に実際の絵を見て確かめてもらう場面ですが、ちょっと読んでみます。

p.26 2～4行目を読む

【入り口からすぐのひろい場所に出ると、先生は息をのみました。「すばらしい！こんな洞窟画ははじめて見た！保存状態も完璧だ！われわれの先祖が世界中の人びとへおくってくれた、これは大変な宝物だよ！】

この発見は世界中の新聞で伝えられ、多くの人が見学に訪れました。発見した少年たちは、戦後、洞窟の公式な管理人兼ガイドとなりました。現在は、壁画の劣化を防ぐために、洞窟を再現したレプリカを見ることが出来るそうです。

2 『ベラスケスの十字の謎』

さて次は、フランスの隣の国、スペインのプラド美術館にある『侍女たち』という絵を題材にした本を紹介します。スペインを代表する画家ベラスケスが描いたこの絵には、いくつか謎があります。その謎に挑戦したのが、この物語です。物語の主人公は少年ニコラス。ニコラスは生まれつき体が小さく、背が伸びない体をしていました。7歳の時、親元に戻ることは二度とないと告げられ、宮

廷で働くために、知らない国へ連れて行かれます。

p.49 2行目～9行目を読む 【むかしのことを忘れるのには、いろいろな面もある。その一つが、「今」としっかり向き合えるようになることだ。～(中略)～人生という海へ、風を受けて乗りだしていこう。】

過酷な状況を乗り越えたニコラスは、宮廷の仕事覚え、やがてベラスケスの工房で働くことになります。ベラスケスは、ちょうど絵を書いている途中で、絵の完成には、ネルバルという何度会っても、後になるとどういふ顔だったか思い出せなくなるという謎の人物の存在が関わってきます。ネルバルはある特別な絵を描くすべを知っているというのです。ベラスケスは、ニコラスにネルバルのところへ使いに行かせます。そこでニコラスは不思議な体験をします。

p.120 4行目～8行目を読む 【「おまえを使いによこすようにベラスケスに言ったのはわしだと、知っていたか？」～(中略)～「あの絵をどう進めるべきか、一刻も早くご教示ください。国王陛下とお妃様をどこに描けばよいかおっしゃっていただければ、お望みのものをさしあげます、とのことです。】

その後ニコラスは、完成した絵のまぼろしを見ます。ニコラスが急いで工房に戻ると、ベラスケスも同じまぼろしを見ていました。そして絵は完成しますが、ベラスケスはネルバルとある取引をしていたのです。さてネルバルとはいったい何者なのでしょう？そして絵の謎は？絵画をめぐる謎解きに目が離せなくなる本です。

3 『カラフルな闇』

さて、次の本も一枚の少し変わった絵から始まる物語です。

主人公の志帆は、離婚して感情の浮き沈みが激しい母親と2人で住んでいます。中学1年生の文化祭の日、志帆は美術部の展示場で一枚の水彩画に引きつけられます。紫色の物体が描いてある不思議な絵でしたが志帆には近くの川だとわかりました。絵を描いたのは、かっこよくて、ちょっと変わった先輩、小栗周一郎ことクリシュー先輩でした。通学路がクリシュー先輩と同じで、二人は一緒に通学することになります。

クリシュー先輩はどんな風が変わっているかという、例えば変わった歩き方をしているのですが、

p.53 4行目～9行目を読む 【クリシューの行動は、あきらかに変だった。～(中略)～でもなんで、交差点の真ん中で？】

この変わった歩き方をしていた理由を、志帆がクリシュー先輩に尋ねると、

p.67 7行目～P.68 2行目を読む 【「ステップをふんだ瞬間、それまでのリズムが変わるだろ。～(中略)～たとえば、地球のこっち側でアゲハチョウが羽ばたくと、向こう側では竜巻が起こるって説もあるんだ。】とクリシュー先輩は言います。

一方志帆とクリシュー先輩の通う学校では、見ると不幸になったり願いが叶ったりするという、「闇魔女」が話題になっていました。志帆は全身黒ずくめの女であるという、闇魔女の目撃情報を集めますが、はたして闇魔女の正体は？

表紙を見せて

この表紙は何色に見えますか？黒ですよ。でもよく見るとカラフルな色が下に見えます。ちょっと本文を読んでみます。

P.145 13行目～P.147 2行目を読む 【オレンジ色の西の空が、～(中略)～だからきとちょっとずつは、わかりあえる。】

この本には『最強の天使』という続編があります。クリシュー先輩が主人公になっています。

4 『岡本太郎』

クリシュー先輩も個性的でしたが、次の本では、昭和の時代に活躍した個性的な日本の芸術家、岡本太郎を紹介します。

1970年、大阪で「人類の進歩と調和」をテーマに万国博覧会が開かれました。その万博のシンボルとなった「太陽の塔」を作ったのが岡本太郎です。「太陽の塔」は今でも大阪の万博公園で見ることができます。

岡本太郎は、漫画家の父と作家の母の間に生まれました。10年間フランスのパリで文化人類学を学び、日本に帰国後、戦争にも行きました。強烈な個性を持った母から大きな影響を受け、「太陽の塔」は母親を表現したものであるとも書かれています。

P.142 9行目～P.143 12行目を読む 【あるとき、太郎はこんなインタビューを受けたことがあります。～(中略)～我々は瞬間と同時に永遠を感じることができるというのです。】

時代に先駆けて、たえず新たな挑戦を重ね、ピカソを超えようとした画家、岡本太郎の熱い人生に迫る一冊です。シリーズで、他にも様々な人物の伝記があるので読んでみて下さい。

5 『すごいぞ!ニッポン美術』

さて、岡本太郎は現代の芸術家でしたが、長い歴史のある私たちの国、日本の芸術家たちが古代から心をこめて描いてきた絵などを紹介するのがこの本です。いくつか見てみましょう。

p.6を見せる

今から3000年位前の、紀元前1000年頃に作られたこの土偶ですが、

P.7を読む 【おっと 宇宙人 発見!…身代わりや お守りとしてつくられたとも いわれている。】とのことです。

P.20、21を見せる

この絵は鎌倉時代に描かれた、「鳥獣人物戯画」という絵ですが、

P.20を読む 【これがニッポンのマンガの元祖 かもしれない。…ゆかいな絵のおもしろさは、鎌倉時代も今も同じだね。】「鳥獣人物戯画」は国宝に指定されています。

P.35を見せる

こちらは、江戸時代に描かれた美人画で、ここには「お江戸のアイドル」と書かれていますね。

P.34を読む 【日本髪をゆった3人娘。…白い肌のすべすべ感やふっくら感まで伝わってくる。】この他にも、どこかで見たことがある、という有名な絵や、かわいらしい絵、ちょっと不思議な絵などが、わかりやすい解説と一緒に紹介されています。豊かな自然や、四季の移り変わりなど、美しい日本の心を感じることができます。

●まとめ

いろいろな人が自分の思いを表現することでアートは生み出されます。今回は、アートにまつわる色とりどりの本を紹介しました。どの本を手にとってみますか？

【その他の本】こちらの本もおすすめです。また、ご自身で追加・差し替えをするなど工夫してみましょう。

- ・『フェルメールの暗号』(ブルー・バリエット/著 プレット・ヘルキスト/絵 種田 紫/訳 ソニー・マガジズ 2005年)
- ・『ラファエロ 天使に愛された画家』(ニコラ・チンクエッティ/文 ビンバ・ランドマン/絵 青柳 正規/監訳 西村書店 2013年)
- ・『メディチ家の紋章』上・下巻(テリーザ・プレスリン/作 金原 瑞人/訳 秋川 久美子/訳 小峰書店 2016年)
- ・「ジョコンダ夫人の肖像」『カニグズバーグ作品集 4』(E.L.カニグズバーグ/作 松永ふみ子/訳 岩波書店 2002年)
- ・『見てごらん!名画だよ』(マリー・セリエ/文 結城昌子/監訳 西村書店 2007年)

山梨県立図書館 2018.3